

公益社団法人長岡法人会賞

大切に

長岡市立旭岡中学校

三年 関口 実澄

私たちは、義務教育で日々学校に通い、集団行動だったり知識だったり礼儀だったりを身につけている。

そんな私たちにとって大切な学校。その学校は税金によって運営されている。最近、税金について学ぶ機会があった。それによると、教科書や机、校舎の建設や修理など、全てが税金によってまかなわれているらしい。私は親の学校へ払っている積立金の明細書が学校から配られるたび、「小中学校無償化」ということについて疑問を感じていた。しかし、それとは比べものにならないほどのお金が動いていて、ケチケチ言うのは違うと考えさせられた。学校にお金をかけず簡単に通えていることによって、初めに書いたような人としての基本的なことだったり、理想的な生活習慣を身につけたり、一般的思考を知ったりなど、「大人」に段階的に近づいていくことができる。では、自費で学校に通っていたらどうだろうか。経済力のある家庭なら、「学校に行って、良い職に就く」という素晴らしいサイクルができるだろう。しかし、経済力のない家庭は学校に通えず、良い職にも就けず、かえるの子はかえると言ったふうな悲しい負のサイクルができあがってしまう。産まれた瞬間から格差が生まれてしまう。私たちは税金で莫大なお金をかけてもらうことによって、平等な生活が送れるようになって

ているのだと思う。こういった最悪の状況を考えたら、教育を受けられることに感謝しなければならぬなと思った。

また、学校はたくさんのお金の払った税金によって成り立っている。小学生のころ、「親の払った金でできているのだから何してもいいだろ」という発言をたびたび耳にした。しかしよく考えてみると、親の払った税金だけで運営されている訳ではないのだ。直接的にその教育関係の恩恵を受けない納税者がたくさんいる。どちらかと言えば親世代ではない人の方が多だろう。彼らは未だの社会を担うであろう私たちのために投資してくれている。

また学校での出張授業や校外学習などはボランティアの方によって支えられている。

こんなにも私たちが平等に高度な教養を身につけられるように多くの人が関わり、そして助けられている。

だからこそ、その整った環境に感謝し、一つずつ一つずつ大切に活用しなければならぬと思う。